

令和4年（2022年）12月定例会・一般質問

【スズメバチの苦情や相談への本市の対応について】

◆大川秀徳

市民から、スズメバチの苦情や相談が私のところに多く寄せられました。本市のスズメバチの苦情、相談への対応について、以下3点を伺います。

1点目、本市へのスズメバチの苦情や相談の件数は何件か。

2点目、スズメバチの苦情や相談があった場合、市はどのような対応をするのか。

3点目、スズメバチの苦情や相談の件数のうち、本市がスズメバチの巣を駆除した件数は何件か。

◎市民生活部長

スズメバチは、5月頃から11月頃にかけて活動し、特に8月から9月にかけては巣づくりのため、活発に活動すると言われており、本市におきましても、夏の時期にスズメバチの相談を多く受けております。

さて、1点目のご質問、苦情や相談件数についてでございますが、スズメバチを含んだ蜂に関する相談件数につきましては、詳細な件数までは把握しておりませんが、年間数十件ほどございます。主な内容としましては、自宅の敷地内にスズメバチの巣ができてしまったが、どのように対応したらよいかというものがございます。

次に、2点目のご質問、市はどのような対応をするかについてでございますが、個人の土地や建物にできたスズメバチの巣は市では駆除を行っておらず、個人で行っていただいております。そうした相談があった場合は駆除業者の業者名、連絡先を伝え、自ら駆除業者に問合せをしてもらうようお願いをしております。

一方で、市の土地や建物にスズメバチの巣ができた場合は市の所管課において駆除業者に依頼するなどして対応しております。

次に、3点目のご質問、相談件数のうち、市が駆除した件数についてでございますが、2点目のご質問でお答えしたように、市では個人の土地や建物にできたスズメバチの巣は駆除しておりませんので、個人から相談があった数十件のうち、市が駆除したケースはございません。

一方で、市の土地や建物にできたスズメバチの巣の駆除は、令和3年度は4件、令和4年度は4月から9月の半年間で10件でございます。最も多いのは学校内にできた場合であり、所管のする学校教育課で対応しているところでございます。

【とこなめゼロカーボンシティ宣言後の取組について】

本市では、地球温暖化を抑制させるべく、2021年7月27日の協議会でとこなめゼロカーボンシティ宣言を表明しました。2050年温室効果ガス排出実質ゼロ挑戦に向けて、以下3点を伺います。

1点目、これまでの取組は何か。

2点目、これまでの取組への評価はどうか。

3点目、今後展開される取組は何か。

◎市民生活部長

本市では、昨年7月にとこなめゼロカーボンシティ宣言を表明するとともに、中部国

際空港株式会社と「ゼロカーボンの実現に向けた連携・協力に関する協定書」を締結いたし、地球温暖化を抑制させるべく、2050年温室効果ガス排出実質ゼロを目指した取組を始めたところでございます。こうした常滑市全域における地球温暖化防止に向けた施策を総合的・計画的に推進するための指針となる常滑市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について今年度末の策定に向けて作業を進めているところでございます。

さて、1点目のご質問、これまでの取組と2点目のご質問、これまでの取組の評価につきましては、併せてお答えをさせていただきます。

地球温暖化防止に向けて、これまでに取り組んでまいりました主なものについてお示しをさせていただきます。

まず、家庭や事業所から出るごみの減量化でございます。これまでにごみ袋の有料化やクリーンセンター常武の有料化などに取り組んでまいり、ごみの減量化は着実に進んでおりまして、焼却処理等から生じるCO<sub>2</sub>の削減につながっております。

次に、今年7月からは中部国際空港株式会社、サントリーホールディングス株式会社と連携・協力して、一般家庭やセントレアから排出される使用済みペットボトルをそのままペットボトルに再生する水平リサイクルに取り組んでおり、年間で約260トンのCO<sub>2</sub>削減を見込んでおります。また、このペットボトルの水平リサイクル事業の一環として、今年9月にはサントリーホールディングスによるペットボトルリサイクル出前授業を三和小学校にて開催いたしました。

次に、今年8月からは国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、燃料高騰や物価上昇の影響を受ける市民の支援を目的とした家庭用LED照明器具等購入補助事業を実施しておりまして、家庭の照明器具を蛍光灯や白熱電球からLED照明に付け替えることで消費電力が抑えられ、CO<sub>2</sub>削減につながります。

次に、今年10月からのコミュニティバス「グリーン」の運行開始でございます。グリーンは市内を広くカバーする路線を設定している公共交通でございます。環境に配慮したEVバスを使用しており、公共交通の利用促進とEVバス化によるCO<sub>2</sub>削減につながると考えております。

なお、これらの各事業につきましては、CO<sub>2</sub>削減だけでなく、市民や事業者の方の意識や行動変容に効果があるものと考えております。

最後、3点目のご質問、今後展開される取組についてでございますが、冒頭で申し上げました今年度策定予定の常滑市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）では、先ほどお示しましたこれまでの取組を含めた省エネルギー化及び再生エネルギー導入事業などの温室効果ガスの排出実質ゼロに向けた具体的な取組や推進体制などを位置づけてまいりますので、この計画に沿って市民や事業者の皆さん、関係者の皆さんと一体となって、省エネルギーと再生エネルギーの両面から温室効果ガスの排出実質ゼロに向けて取り組んでまいります。